

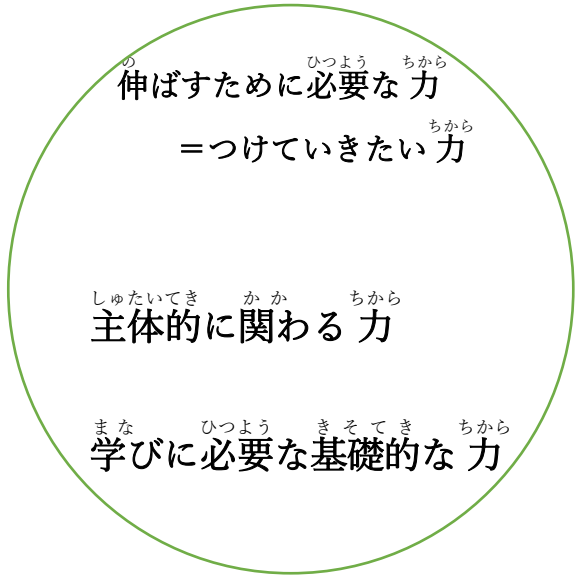
柳津小で児童につけていきたい力と指導者の役割

目標

一人一人の児童がそれぞれ持っている力を伸ばす。どこを重点に伸ばすか

「コミュニケーション力」と「感性 思いやり」

お互いの考えを生かして、よりよい考え方を選べる力



自分で考えて行動し、責任を持つ力

持っている知識技能を使い新しいことに挑戦する
他者と協働して新しいものを生み出す。

集団生活のルールを大切に作る力

話を聞く。順番を守る。物を大切にする。

時間を守る。忘れ物をしない。 など

学びに向かう力

わからないことは、分かろうとする。すぐにあきらめない。

力を合わせて一つのことを成し遂げようとする意欲。

これらの力のつきようを自己満足の形に終わらせず、より成長させていくための指導者の役割

教えることよりも児童自身の学びを育てる。学びを育てるために、指導者が行っていくこと。

①きまりや生活の仕方と向き合う時間をつくる。

- ・守らなければいけない理由を考える。
- ・決めたことは守る。
- ・守れなかったときは、次に生かす。
- ・命を大切にするために必要なことを考える。

②考え方を広げ深めるために、各教科の内容は、身につけさせる。

?から始まる授業が子どもの意欲を高める。

しかし 教師が教える時間も必要

児童の定着を確かめるテストも必要

自分で教科書や様々な方法で学ぶ時間も必要

友達と一緒に補い合い、高め合う時間も必要

反復や繰り返しの時間も必要

③自分らしさや自分の良さをより広げ、深めるために学ぶ時間と機会をつくる。

もっと自分の好きな○○をやりたいという気持ちを保障する時間・自分がやりたいことを思い切っている時間

→トイチャレ、マイチャレ、みかけ山タイム

学校で指導者が支える学びが、家庭学習を一層子ども自身のものに変えていくことに取り組む。